



613-000710 Rev.M 090713



最初にお読みください

# CentreCOM® 9424T/SP-E リリースノート


この度は、CentreCOM 9424T/SP-E をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ファームウェアバージョン 2.5.5J

### 2 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 2.5.1J から 2.5.5J へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

#### 2.1 SHOW DEBUG コマンドの追加


 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

デバッグ情報を表示するための SHOW DEBUG コマンドが追加されました。SHOW CONFIG コマンドの INFO オプション指定時と同義のコマンドです。本コマンドは、トラブルシューティング時など、内部情報の確認が必要な場合を想定したものです。ご使用に際しては、弊社技術担当にご相談ください。

### 3 本バージョンで仕様変更された機能

ファームウェアバージョン 2.5.1J から 2.5.5J へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

#### 3.1 マルチプル VLAN

 「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」

ADD VLAN コマンドで GROUP パラメーターを指定して、VLAN にポートを追加したあと、同一グループに対して再度 ADD VLAN コマンドで別のポートを追加することができませんでしたが、追加できるように仕様変更されました。

#### 3.2 Ping：応答時間の表示変更

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

PING コマンド実行時、応答時間の表示が以下のとおり仕様変更されました。

変更前：

実際の値 = 0 ~ 9ms 画面表示 = 0 ms

実際の値 = 10 ~ 19ms 画面表示 = 1 ms

実際の値 = 20 ~ 29ms 画面表示 = 2 ms

変更後：


実際の値 = 0 ~ 9ms 画面表示 = < 10 ms

実際の値 = 10 ~ 19ms 画面表示 = < 20 ms

実際の値 = 20 ~ 29ms 画面表示 = < 30 ms

本製品の仕様上、応答時間は 10ms 単位での表示になります。

### 3.3 トランクポートにおける ARP エントリーの登録について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

トランクポートでは、ARP エントリーが物理ポートではなくトランクポートに関連付けて登録されるように仕様変更されました。

これにより、SHOW IP ARP コマンドの表示項目「Port」に、トランクグループの ID が表示されるようになりました。

| Interface | IP Address   | MAC Address       | Port    | Type    |
|-----------|--------------|-------------------|---------|---------|
| vlan1-0   | 192.168.1.10 | 00:00:00:00:00:10 | 1 (T-1) | Dynamic |

T-1 はトランクグループ ID 「1」 を示します。

## 4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 2.5.1J から 2.5.5J へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 本製品起動後最初に SNMP 要求を受信したインターフェースが、ローカルインターフェース以外のインターフェースの場合、応答パケットの始点アドレスにローカルインターフェースの IP アドレスではなく、要求パケットを受信したインターフェースの IP アドレスがセットされていましたが、これを修正しました。
- 4.2 本製品を起動してから 4 日間経過すると、本製品から送出される SNMP トラップの System UP Time の値が 0 (ゼロ) に戻っていましたが、これを修正しました。
- 4.3 本製品が 802.1X 認証の Authenticator のとき、ユーザー名の文字数が 19 文字以上で、かつ 4 の倍数 -1 (19, 23, 27 文字など) に設定されている Supplicant を認証すると、本製品がリポートする場合がありますが、これを修正しました。
- 4.4 Web 認証において、SET WEBAUTHSERVER コマンドの REDIRECTURL パラメーターで認証成功後に指定したページにジャンプさせる設定を行った場合、認証成功後に Supplicant 側で本製品の Web 認証サーバーの IP アドレスを指定してもログアウト画面が表示されず、REDIRECTURL パラメーターで指定したページが表示されるため、意図的にログアウトさせることができませんでしたが、これを修正しました。
- 4.5 RIP バージョン 1 において、ダイナミックルーティング経由でデフォルト経路が経路表に登録される際に、0.0.0.0/0 以外に 0.0.0.0/8 も登録されていましたが、0.0.0.0/8 は登録されないように修正しました。
- 4.6 異なるネットワークから本製品 (CPU) 宛ての通信を連続的に行うと、ARP が解決しているにもかかわらず、ARP Request が送信される場合がありますが、これを修正しました。

- 4.7 ARP 解決がされている IP アドレスをネクストホップとした経路宛てに通信が行われているにもかかわらず、該当の ARP エントリーがエージングで削除されていましたが、これを修正しました。
- 4.8 トランクポート上で登録された ARP エントリーが、トランクポートで通信が行われているにもかかわらず削除されていましたが、これを修正しました。
- 4.9 Sender Protocol Address フィールドが 0.0.0.0 の ARP パケットを受信すると、誤った内容が ARP キャッシュに登録されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.10 DNS リレー機能有効時、本製品起動後最初に送出される DNS Query メッセージの始点 IP アドレスに、DNS Query メッセージを受信したインターフェースではないインターフェースの IP アドレスがセットされていましたが、これを修正しました。
- 4.11 DHCP/BOOTP リレー機能有効時、DHCP サーバーから特定の DHCP Offer メッセージを受信すると、本製品がリポートする、または本製品宛ての通信ができなくなる場合がありますが、これを修正しました。
- 4.12 DHCP/BOOTP リレー機能有効時、本製品の ARP キャッシュ更新中にクライアントに対して IP アドレスが割り当てられると、本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.13 DHCP サーバー機能使用時、パソコン環境自動復旧ソフトウェアがインストールされた一部の DHCP クライアントにおいて、再起動時に IP アドレスが取得できないことがありましたが、これを修正しました。

## 5 本バージョンでの制限事項

---

ファームウェアバージョン 2.5.5J には、以下の制限事項があります。

### 5.1 MSTP とポートトランキングの併用

マルチプルスパニングツリープロトコル (MSTP) とポートトランキングは併用できません。

### 5.2 ポート認証 (802.1X 認証 / MAC ベース認証) と攻撃検出機能の併用

ポート認証 (802.1X 認証 / MAC ベース認証) と攻撃検出機能は併用できません。

### 5.3 IGMP Snooping とポートセキュリティーの併用

IGMP Snooping とポートセキュリティーは併用できません。


### 5.4 マネージメントアクセスコントロール

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「マネージメントアクセスコントロール」

エントリーがない状態でマネージメントアクセスコントロールを有効にした場合は、ARP パケットの受信も許可しなくなる (ARP Request に応答しない) 仕様ですが、一度エントリーを追加して削除するという操作によってエントリーがない状態にした場合は、ARP パケットの受信が許可されるようになります。

---


## 5.5 SHOW DEBUG/SHOW CONFIG INFO コマンド

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

SHOW DEBUG コマンドまたは SHOW CONFIG コマンドに INFO オプションを指定して実行するときは、実行前に Ping を数回行うようにしてください。Ping を実行せずに、SHOW DEBUG コマンドまたは SHOW CONFIG コマンドを INFO オプション指定で実行すると、本製品がリポートする場合があります。

---


## 5.6 SHOW CONFIG DYNAMIC コマンド

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「コンフィグレーション」

設定ファイルの保存中に、SHOW CONFIG コマンドを DYNAMIC オプションを指定して実行すると、該当の設定ファイルが破損する場合があります。

---

## 5.7 コンパクトフラッシュ


 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

コンパクトフラッシュ上のファイルに対して、ディレクトリーを指定して以下のコマンドを実行することができません。

- ・ COPY
- ・ RENAME
- ・ DELETE
- ・ SET CFLASH DIR

---


## 5.8 認証サーバー

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

RADIUS アカウンティング機能において、Acct-Status-Type 属性が Stop の Accounting-Request パケットに User-Name が含まれません。

---

## 5.9 TFTP サーバーを使用したアップロード・ダウンロード

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「アップロード・ダウンロード」

TFTP サーバーからダウンロードした 45Byte より小さいファイルを TFTP サーバーにアップロードすると、本製品がリポートすることがあります。

---


## 5.10 ログ

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

- 本製品（CPU）宛ての packets を高レートで受信していると、「rps: RPS not present」という不正なログが出力される場合があります。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。
- PURGE LOG コマンドに PERMANENT を指定して実行したあと、SHOW LOG コマンドに PERMANENT、SEVERITY パラメーターに ALL を指定して、ログを表示すると、不正なメッセージが表示されます。

---


## 5.11 SNMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

- 複数の SNMP マネージャーから同時にプライベート MIB の取得を繰り返し行っていると、本製品の SNMP エージェントが応答しなくなる場合があります。
- ifNumber.0 の値が、物理ポート数+ループバックインターフェース（論理ポート）数+VLAN インターフェース数の合計値ではなく、常に 24 になっています。
- PURGE IP コマンドの実行によって IP 情報が削除された VLAN インターフェースのエントリが ifTable および ipAddrTable から削除されずに残ったままになります。
- SET IP INTERFACE コマンドの RIPMETRIC パラメーターで VLAN インターフェースの RIP メトリックを変更すると、ipAddrTable に不正なエントリが追加されます。

---


## 5.12 EAP パケット透過機能

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

SET SWITCH MULTICASTMODE に B、C、D または E を指定して EAP パケット透過機能を有効にしたとき、タグなしポートで受信した 68Byte 以上の EAP パケットが正しく転送されません。

---


## 5.13 ポート設定

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

- SET SWITCH PORT コマンドの COMBO パラメーターに FIBER（SFP の光ファイバーポート）を指定するときは、あらかじめ該当ポートの通信モードを AUTONEGOTIATE または 1000MFULL に設定しておいてください。  
通信モードが 10/100M のまま FIBER に設定して保存すると、再起動時に FIBER の設定がエラーではじかれます。
- SET SWITCH PORT コマンドの SPEED パラメーターで 10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO のいずれかに設定されたポートに対して、RESET SWITCH PORT コマンドを実行すると、設定ファイルに SPEED パラメーターの設定は残っていますが、実際には AUTONEGOTIATE でリンクされます。  
SPEED パラメーターを設定しなおすか、本製品を再起動してください。

---


## 5.14 ポートトランキング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

- ARP エントリが登録されているポートを含めてトランクグループを作成すると、負荷分散が行われません。トランクグループ作成後、RESET IP INTERFACE コマンドで ARP エントリを削除すると、正常に負荷分散されるようになります。
- 作成済みのトランクグループにポートを追加すると、FDB にポート番号が正常に登録されず、通信ができなくなります。該当トランクポートをいったんリンクダウン→リンクアップさせると、通信可能になります。
- トランクグループからポートを削除し、該当ポートで通信を行うと、トランクポートではないにもかかわらず、FDB のポート番号に削除前のトランクグループ ID が登録されます。

---


## 5.15 ポートセキュリティ

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- 本製品に IP アドレスが設定されているとき、ポートセキュリティが有効なポートで、本製品の IP アドレス宛ての ARP Request を受信すると、ARP Reply がフラッディングされます。
- ポートセキュリティ有効ポートにおいて、通信が許可されている端末との間で通信が行われたあと、該当端末を別のポートに移動すると移動先のポートでも通信ができてしまいます。該当端末の ARP エントリーがエージングで削除されていれば、移動先のポートで通信はできません。

---


## 5.16 EPSR Snooping

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「EPSR Snooping」

SHOW/DISABLE EPSRSNOOPING コマンドの CONTROLVLAN パラメーターに VLAN 名が 20 文字のコントロール VLAN を VLAN 名で指定することができません。VLAN 名が 20 文字のコントロール VLAN は、VLAN ID で指定するようにしてください。

---


## 5.17 マルチプル VLAN (Protected Ports VLAN)

 「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」

Protected Ports VLAN のクライアントポートとタグ付きポートは同一ポートに設定できない仕様ですが、先にクライアントポートを設定し、次に同一ポートをタグ付きポートにする設定を行うと、設定がエラーではじかれません。

---


## 5.18 スパニングツリー

 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」 / 「STP」

スパニングツリー有効時、DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、SHOW STP PORT コマンドの表示項目「State」において、該当ポートが Blocking で表示されます。表示上の問題であり動作には問題ありません。

---


## 5.19 ラピッドスパニングツリー

 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」 / 「Rapid STP」

Rapid STP 有効時、DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、SHOW RSTP コマンドに PORTSTATE パラメーターを指定して表示される「Enable」において、該当ポートが Disabled で表示されます。表示上の問題であり動作には問題ありません。

---

## 5.20 ポリシーベース QoS

 「コマンドリファレンス」 / 「QoS」 / 「ポリシーベース QoS」

- トラフィックが同一 QoS ポリシー内の複数のトラフィッククラスにマッチした場合、CREATE QOS TRAFFICCLASS コマンドの MAXBANDWIDTH パラメーター（最大帯域設定）が正しく動作しません。  
MAXBANDWIDTH パラメーターを指定する場合は、同一 QoS ポリシー内で、複数のトラフィッククラスにマッチするような設定（IP と TCP、TCP と TCP ポートなど一方がもう一方を包括するようなフィルターの指定）をしないようにしてください。

- CREATE QOS POLICY コマンドの REDIRECTPORT パラメーターでトラフィックの出力先ポートとして指定されたポートから送られるパケットにタグが付与されます。ただし、REDIRECTPORT に指定されたポートと同じポートグループ（1～12のグループまたは13～24のグループ）内から転送されたパケットに限り、本現象が発生します。
- SET QOS TRAFFICCLASS コマンドの EXCEEDREMARKVALUE パラメーターに NONE を指定することができません（エラーではじかれます）。EXCEEDREMARKVALUE パラメーターを NONE に戻す場合は、該当のトラフィッククラスを DESTROY QOS TRAFFICCLASS で一度削除し、トラフィッククラスを作成しなおしてください。

---

## 5.21 ハードウェアパケットフィルター

### 「コマンドリファレンス」 / 「ハードウェアパケットフィルター」

ハードウェアパケットフィルターを設定する場合には、以下の点にご注意ください。

- アクションに許可（permit）を使用する場合は、許可（permit）が指定されているエントリーを最後（最も大きい番号）になるように設定してください。  
上記設定を行っても、設定どおりにフィルターが動作しない場合は、設定を保存後再起動してください。
- アクション許可（permit）とアクション破棄（deny）を併用する場合は、許可（permit）と破棄（deny）の各エントリーに同じ IP マスク値（例：24 ビット）を設定しないでください。  
許可（permit）と破棄（deny）の各エントリーで同じ IP マスク値を使用する場合は、必ず、どちらか片方のエントリーにその他のパラメーター（例：UDP など）を指定してください。

---

## 5.22 ポート認証

### 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

- ポートを Authenticator ポートに設定すると、同ポートで自動的にイーグレスフィルタリングが有効になり、その設定が設定ファイルに書き込まれます。Authenticator ポートではイーグレスフィルタリングが有効になっている必要がありますので、イーグレスフィルタリングの設定は変更しないようにしてください。
- SET PORTAUTH PORT または SET PORTACCESS PORT コマンドの MODE パラメーターに MULTI、CONTROL パラメーターに AUTHORISED を指定しているとき、SHOW PORTAUTH (PORT) または SHOW PORTACCESS (PORT) コマンドでサブリカント数が正しく表示されない場合があります。
- Authenticator ポートに、ADD SWITCH FILTER コマンドによるスタティック MAC アドレスの登録が可能です。登録されたスタティック MAC アドレスで通信をすることはできません。
- ダイナミック VLAN で、認証されたポートを別の MST インスタンスに所属する VLAN に指定した場合、同一 VLAN 内でも通信ができなくなります。
- ポートがゲスト VLAN に割り当てられているとき、ゲスト VLAN に所属する別の PC から未学習のユニキャストアドレスでは通信できません。
- MAC ベース認証使用時、SET PORTAUTH PORT または SET PORTACCESS PORT コマンドの REAUTHPERIOD パラメーターで指定する Supplicant の再認証間隔が、

FDBのエージングタイムよりも短く設定されていると、SupplicantのMACアドレスがエージングによって削除されなくなります。

- Web 認証のHTTP リダイレクト機能において、Supplicantのアクセス先がURL パラメーター付きのURL (?name=value が付加されている URL) の場合、Web 認証画面にリダイレクトされません。
- 802.1X 認証において、SET PORTAUTH PORT または SET PORTACCESS PORT コマンドの PORTMOVEREAUTH パラメーターがDISABLED (再認証を行う) に設定されているとき、Authenticator ポートにHUBなどを介して接続されている Supplicant を、同一スイッチ内の別の Authenticator ポートに (Authenticator ポートをリンクダウンさせずに) 移動して認証を行うと、ARP の登録が更新されず、移動先のポートで通信ができません。
- 802.1X 認証または Web 認証と、ゲスト VLAN 併用時、Supplicant に対して認証許可状態を解除しても、ただちにゲスト VLAN の所属にならないことがあります。
- ポート認証設定時に自動的に設定ファイルに書き込まれる「set switch port(s)=X unkucastegressfiltering=yes」が、認証ポートでリンクダウンが発生すると、SHOW CONFIG コマンドの DYNAMIC オプションで表示されなくなる場合があります。

---

## 5.23 IP

### 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

サーバーとして使用される UDP または TCP ポート番号がヘッダーの終点ポートにセットされた TTL=1 のパケットを受信すると、ICMP Time Exceeded メッセージが送信されません。

---

## 5.24 ARP

### 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

ARP 解決されていない IP アドレス宛てのルーティングされた 1 パケット目の TTL の値が 2 減算されます。

---

## 5.25 DHCP/BOOTP リレー・DHCP サーバー

### 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」

### 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

DHCP/BOOTP リレー機能または DHCP サーバー機能有効時、DHCP クライアントが本製品のトランクポート配下に接続されていると、IP アドレスの取得に時間がかかる場合があります。

---

## 5.26 IPv6 マルチキャスト

### 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」

IPv6 マルチキャストアドレスと一致した MAC アドレスのパケットを受信すると、マルチキャストグループとして登録してしまうことがあります。



## 6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

---


同梱の取扱説明書、および「CentreCOM 9424T/SP-E コマンドリファレンス 2.5 (613-000699 Rev.D)」の補足事項です。

### 6.1 ポート認証のマルチプルダイナミック VLAN と Protected Ports VLAN の併用

---

ポート認証のマルチプルダイナミック VLAN (SET PORTAUTH PORT または SET PORTACCESS PORT コマンドの VLANASSIGNMENTTYPE=USER による設定) と、Protected Ports VLAN は併用できません。

### 6.2 エンハンススタッキング

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「エンハンススタッキング」


- マスタースイッチからスレーブスイッチに SNMP 経由でエンハンススタッキング接続している最中に、他のスイッチから該当のマスタースイッチに Telnet や SNMP による接続を行わないでください。
- SNMPv3 を使用して、エンハンススタッキンググループのスレーブスイッチにアクセスすることはできません。
- エンハンススタッキングを使用する場合、マスタースイッチとスレーブスイッチを接続するには、下記のとおり接続してください。
  - ・ スレーブスイッチ側は、Default\_VLAN に所属するポートにマスタースイッチを接続してください。Default\_VLAN 以外の VLAN に所属するポートに接続した場合は、IP インターフェースを作成して IP アドレスを設定しなければなりません。
  - ・ マスタースイッチ側は、ローカルインターフェースに設定した VLAN に所属するポートにスレーブスイッチを接続してください。

### 6.3 本製品起動時のご注意

---

本製品の電源をオンにしてから起動が完了するまでの間は、電源ケーブルを抜いたり、リセットボタンを押したりしないでください。

### 6.4 認証サーバー

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

ADD RADIUSSERVER コマンドで認証サーバーリストに追加された RADIUS サーバーと本製品が接続された状態で、ENABLE AUTHENTICATION コマンドにより認証が有効の場合は、RADIUS サーバーに登録したログイン名 / パスワードでしか本製品にログインすることができません。

本製品に設定されているユーザー名 / パスワードでログインする場合は、ENABLE AUTHENTICATION コマンドを実行しないでください。

### 6.5 SNMP

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」


- プライベート MIB の atiStkSwSysProductInfoTable 内 atiStkSwSysDCState が正しい値を返しません。リダンダント電源装置「CentreCOM RPS3204」使用時は、SHOW

SYSTEM コマンドで本製品の電源とリダナント電源装置の電源の On/Off を確認してください。

- ブリッジ MIB の dot1dStpPort Table 内の dot1dStpPortEnable を変更しても設定は変更されません。本製品では、ポート単位でスパニングツリープロトコルの有効 / 無効を変更することはできません。
- SNMP マネージャーからシステム名を設定した場合、ログアウト / ログイン後にシステム名がプロンプトに反映されます。
- 本製品の仕様では、ipAdEntIfIndex および ifIndex には、物理ポート数 + (VLAN ID × 16) の値が付与されます。

---


## 6.6 フォワーディングデータベース

 「コマンドリファレンス」 / 「フォワーディングデータベース」

- リンクダウンをとまなわない端末移動があった場合、学習機能により登録された MAC アドレスがエイジングするまで、通信が復旧しないことがあります。
- IP インターフェースを複数作成すると、FDB に PORT0 (ゼロ) の MAC アドレス (本製品の MAC アドレス) が複数表示されます。
- ポートグループ 1 ~ 12 とポートグループ 13 ~ 24 グループ間で通信を行った場合、同一の MAC アドレスがどちらのポートの FDB にも表示される場合があります。
- 予約マルチキャストアドレスを、FDB にスタティックエントリーとして登録することはできません。

---


## 6.7 複数ポートから 1 ポートへの通信

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- Jumbo フレームを複数ポートから 1 ポートに対して同時に送信すると、受信した 1 ポートからフレームが転送されません。
- ポートグループ 1 ~ 12 とポートグループ 13 ~ 24 間の通信において、複数ポートから 1 ポートに対して同時にパケットを送信し、パケットロスが発生した場合、送信ポートによってパケットの損失率にばらつきがあります。

---


## 6.8 ポートランキング

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- ランキンググループの最若番ポートを抜き差しすると、接続の組み合わせによって、ポートのリンクアップトラップが生成されない場合があります。
- CREATE SWITCH TRUNK コマンドの SELECT パラメーターに MAC アドレスの選択基準 (MACSRC、MACDEST、MACBOTH) が指定されていると、ルーティング後のパケットが負荷分散されずに送出されます。

---

## 6.9 ポートミラーリング


 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- ポートミラーリング機能が有効の場合、「01:80:C2:00:00:00」などの予約マルチキャストアドレスをソースポートで受信すると、ミラーポートからパケットが重複して送信されます。

- L3スイッチングされるパケットは、ルーティング処理後にミラーポートに出力されません。
- ソースポートを複数設定している状態で、あるソースポートから入力されたパケットが、L3スイッチングされて別のソースポートから出力された場合、ミラーポートにはルーティング処理後のパケットが1個だけ出力されます。

---


## 6.10 バーチャル LAN

 **「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」**

MAC アドレス VLAN に MAC アドレスを追加したとき、別の VLAN から、MAC アドレス VLAN に追加した MAC アドレスを送信元 MAC アドレスとして持つ機器同士で双方向のユニキャスト通信を行うと、パケットが転送されてしまいます。

---


## 6.11 マルチプル VLAN (Protected Ports VLAN)

 **「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」**

- 複数の Protected Ports VLAN が存在し（例えば VLAN10 と VLAN20 が存在するような場合）、アップリンクポートの一部を共有している場合、VLAN10 のクライアントから VLAN20 宛てにパケットを送信すると、VLAN20 のアップリンクポートだけでなくクライアントポートにも送信されます。
- SET SWITCH MULTICASTMODE コマンドで B（BPDU/EAP パケットを、VLAN を超えて、すべてのポートに転送する）が設定されていると、マルチプル VLAN（Protected Ports VLAN）のグループを超えて BPDU/EAP パケットが同一 VLAN 内にフラッドリングされます。

---


## 6.12 MAC アドレス VLAN

 **「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」**

MAC アドレス VLAN で本製品宛ての通信、およびルーティングをさせることはできません。

---

## 6.13 ラピッドスパンニングツリー

 **「コマンドリファレンス」 / 「スパンニングツリープロトコル」 / 「Rapid STP」**

- ラピッドスパンニングツリープロトコルを有効にし、トランクグループに所属したポートがリンクアップすると、そのポートの通信速度の設定に関係なく、ポートプライオリティが 64、パスコストが 2000 に設定されます。
- ACTIVATE STP/MSTP コマンドを実行すると、設定ファイルに保存されますが、ACTIVATE RSTP コマンドを実行しても、設定ファイルには保存されません。

---

## 6.14 クラシファイア


 **「コマンドリファレンス」 / 「クラシファイア」**

CREATE CLASSIFIER コマンドの ETHFORMAT パラメーターに 802.2-UNTAGGED を指定した場合は、Novell 802.3 raw（タグなし）のフレームフォーマット（エンキャプセレーション）も対象になります。

また、ETHFORMAT パラメーターに 802.2-TAGGED を指定した場合は、Novell 802.3 raw（タグ付き）のフレームフォーマット（エンキャプセレーション）も対象になります。

---

## 6.15 ポリシーベース QoS

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「QoS」 / 「ポリシーベース QoS」

- CREATE QOS TRAFFICCLASS コマンドの MAXBANDWIDTH パラメーターに 0（ゼロ）を指定すると、帯域ゼロのトラフィッククラスが作成されますが、このトラフィッククラスが割り当てられた QoS ポリシー作成直後の一定量の通信、および本製品再起動直後の一定量の通信に限り、該当ポートからのトラフィックがフィルターされません（帯域ゼロになりません）。
- 出力ポートに QoS ポリシーを関連づけた場合、フィルターの対象となるのは学習済みのユニキャストアドレス宛でのトラフィックのみです。未学習のユニキャスト / マルチキャストアドレス、およびブロードキャスト宛でのトラフィックは対象になりません。また、学習済みのマルチキャストアドレス宛でのトラフィックも対象になりません。

---


## 6.16 ポート認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

- ポート認証が有効で、SET RADIUSSERVER コマンドの DEADTIME パラメーターが 0（ゼロ=デフォルト）のとき、RADIUS サーバーを 3 台登録し、本製品からの Access-Request に対して 3 台とも応答がないと、全サーバーに対して同時に Access-Request パケットが再送されます。
- ポート認証が有効で、SET RADIUSSERVER コマンドの DEADTIME パラメーターが 0（ゼロ=デフォルト）のとき、優先順位 3 のサーバーでのみ認証が行われた場合、認証のたびに 3 台のサーバーに対して Access-Request パケットが送信されます。また、優先順位 2 のサーバーでのみ認証が行われた場合は、優先順位 1 と 2 のサーバーに対して Access-Request パケットが送信されます。
- MAC ベース認証と Web 認証では、Supplicant の MAC アドレスがエージングにより FDB から削除されると、認証許可状態が解除されます。
- リンクダウン・リンクアップ時に EAP-Start を送出する Supplicant（Windows XP SP3、Windows Vista など）では、Authenticator ポートに HUBなどを介して Supplicant が接続されている環境で、HUB 配下の Supplicant の移動によって接続先の Authenticator ポートが変更された場合、SET PORTAUTH PORT または SET PORTACCESS PORT コマンドの PORTMOVEREAUTH パラメーターに ENABLED（再認証を行わない）が設定されていても、認証許可状態が解除されます。移動先の Authenticator ポートで再認証を行わずに認証許可状態を引き継がせることはできません。

---

## 6.17 PKI

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「PKI」

- 証明書のシリアル番号が -2147483649 以下、2147483648 以上の場合、SHOW PKI CERTIFICATE コマンドで表示される Serial Number の項には、xx:xx:xx:xx... の形式で表示されます。
- SET SYSTEM DISTINGUISHEDNAME コマンドで「/」を使用しないでください（「/」は未サポート）。「/」は設定ファイルで「,」に変換されます。

---

## 6.18 DNSリレー

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DNSリレー」

- 本製品のDNSリレーはWeb認証のHTTPリダイレクト機能用として実装しています。DNSキャッシュを持っていないため、大量のDNS queryを処理する性能はありません。
- 本製品の仕様では、DNS Queryメッセージの始点IPアドレスには、DNS Queryメッセージを受信したインターフェースのIPアドレスがセットされます。

---

## 6.19 MLD Snooping

 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「MLD Snooping」

マルチキャストルーターが接続されるポートが存在しない状態で、Multicast Listener Reportを受信すると、すべてのポートに転送されます。

SET IPV6 MLDSNOOPING コマンドのROUTERPORTパラメーターでポートを設定すれば転送されません。

---

## 7 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (パラメーター) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

```
MENU
SET SWITCH CONSOLEMODE
SET AUTHENTICATION METHOD=TACACS
ADD/DELETE TACACS SERVER
ENABLE/DISABLE/SET/SHOW HTTP SERVER

SET SWITCH PORT
[BACKPRESSURE={YES|NO|ON|OFF|TRUE|FALSE|ENABLED|DISABLED}]
[BPLIMIT={1..7935}] [FCRLLIMIT={1..7935}]

SET PORTAUTH PORT/SET PORTACCESS PORT
[FORCERENEWING={ENABLED|DISABLED}]
SET PORTAUTH IDTOGGLE

SET SWITCH PORT SECURITYMODE=PACONTROL
CREATE/DESTROY/ADD/DELETE/SET/SHOW LACP

ENABLE/DISABLE/SET/SHOW/PURGE GARP
SET VLAN={vlanname|1..4094} [TYPE=PORTBASED]

PURGE/SHOW PKI
SET PKI CERTSTORELIMIT

SET/SHOW SSL

SHOW IP ROUTE FDB

SET BOOTP RELAY MAXHOPS

ADD SWITCH FDB [MODE={LOCKED|STATIC}]
ADD SWITCH FILTER [MODE={LOCKED|STATIC}]
```

## 8 コマンドリファレンスについて

---

コマンドリファレンス「CentreCOM 9424T/SP-E コマンドリファレンス 2.5 (613-000699 Rev.D)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、あわせてご覧ください。

コマンドリファレンスのパーツナンバー「613-000699 Rev.D」はコマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

**<http://www.allied-telesis.co.jp/>**